

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270300599		
法人名	有限会社 源氏		
事業所名	グループホーム 源氏庵		
所在地	静岡県伊豆の国市四日町346-2		
自己評価作成日	平成29年2月16	評価結果市町村受理日	平成29年 4月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JgyosyoCd=2270300599-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JgyosyoCd=2270300599-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 29年	3月 10日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自然に自分らしく共に生きよう源氏庵」という理念の下に、この地域で暮らされてきた利用者が送られてきた生活を極力維持できるようサポートしていくことに力を入れている。スタッフに対しても働きやすい環境を提供するため、役員が率先してコミュニケーションをとるようにし、結果として勤続10年近いスタッフが、開所当時からスタッフも所属している。スタッフが安定していることで、利用者本人、家族に対しての安心感に繋がると考えている。  
又、利用者家族とコミュニケーションを密にとることで、施設入居に生じる疑問や不安を解消するよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

恵まれた敷地面積の平屋の建物の中で、利用者も職員も無理なく自然にゆったり生活している。家族運営で地元生まれ育ち地域に根付いている事業所は、全利用者が一つの家族として生活している。昨年亡くなる人が重なり満床ではない状態だが、空をいっぺんに全部埋めるのではなく、新しい利用者にも環境の変化に慣れてもらうまで余裕を持って入居させている。また新しい利用者のみでなく、利用している入居者にも慣れて頂くよう利用者目線で考慮している。職員間、管理者と職員間のコミュニケーションがとれていて、話しやすい間となっているため職員は長く働き続けることができ、利用者も環境の変化が少なく穏やかに過ごせている。手作りの食事は味や地元の米・野菜・果物を使用して工夫した献立に色彩も豊富で利用者は食欲がわきよく食べている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、パンフレットに記載し、施設内にもフロアへの目につく場所に掲げている。又、その理念を実践すべく日頃より介護現場において職員に指導をしている。	「自然に自分らしく共に生きよう源氏庵」の理念のもと、日々のケアに活かしている。職員が自分で判断して行動できるようにし、困った時には管理者に相談している。毎朝の朝礼、申し送りノート等で立ち戻り、理念を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の文化祭への出展や、ボランティアの受け入れ等、地域との関わりを積極的に行っている。また、直接的な関わりではないが、日課である散歩により、どういった方が利用しているのか、常に近隣の目に見えるように心がけている。	文化祭に利用者や作品を制作し出展し公民館に展示された。小学校の運動会を散歩しながら見に行っている。包括から依頼された見守りのポスターを貼り、捜索に協力している。管理者は消防団員として地域で活躍している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センター主催の地域での催しにて、施設のことや認知症の事について話す機会を頂いている。また、民生委員向けの講習会を受け入れていることにより、地域の方に、認知症やグループホームの事を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回のペースで開催している運営推進会議で、施設の現状、取り組みを伝え、参加して頂く。関係機関の専門職や区民の方からは、施設に対する要望、質問を頂き、可能な限りフィードバックするようにしている。	民生委員、地域代表、市職員、包括が参加し定期的に開催している。家族に案内を出しているが平日のため参加はない。利用者の状況、活動報告を行い、時には、協力医の参加もあり、活発に意見交換している。「利用者の状況を見たい」との意見に防災訓練を予定し、家族にも参加要請をする。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿福祉課、社会福祉課とは密に連絡を取り、生活保護、緊急的な支援要請に応えられるように心がけている。	包括からはサロンでお芝居の依頼があり協力している。包括より困難事例の受入の依頼があり、出来る限り受け入れている。研修の情報は県よりメールでお知らせがあり、参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	あらゆる拘束による弊害を理解した上で、可能な限り行わないようにしているが、それ以上にリスクが大きい場合には、家族との相談を重ねた上で、限定的に行う事はある。それ以外に、気付かぬうちに発せられるスピーチロックには、職員同士で注意し合うようにしている。	身体拘束はやむを得ない場合を除き基本的に行わないこととしている。居室のドアの開閉時に音が鳴る仕組みを備えている。職員は、利用者一人一人の対応をノートで情報共有し、拘束をしないケアに努めている。言葉での拘束をしないよう、職員は、注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での虐待を防止するため、職員同士で声を掛け合い、協力してケアに取り組むようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や後見人制度に関して、必要に応じて市の担当者、包括、社協と連携して取り組み、利用者にも不利益が生じないように対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本契約以前に、施設独自の仮入居期間を設け、利用者、家族が納得した上で契約を行っている。変更等が生じた際も面談の機会を設けるよう努め、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情窓口を設け、日頃から利用者、家族と意見交換のしやすい関係作りに努めている。又、頂いた意見は迅速にサービスに活かせるよう努めている。	面会時に利用者の状況を報告し、家族からは意見や要望を聞いている。家族には月に1度は訪問してもらうように、利用料の支払いを現金払いとしている。いつでも意見を聴けるよう管理者の電話番号を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、職員と意図的にコミュニケーションをとるように図り、日課のミーティング以外にも、年二回以上の懇親会を設けて、意見を出せる環境づくりを行っている。	毎朝のミーティングやカンファレンスで職員の意見を聴く機会としている。「温度調整に加湿器」、「利用者の体に合った椅子を使用」などの意見が出て、意見を反映している。最低年2回の懇親会を開き、職員の意見を聴いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適宜、個別の面談を行う事で、勤務上の悩みや、要望を伝えられる機会を設けている。勤務形態に関しても、管理者以外にも相談できるよう担当者を配置している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々のケアの中で、困っていること、不安なこと、分からないことを共有できるよう、連絡ノートを活用している。また、ノートに書きづらい内容に関しては、個別に相談に応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議を主として、他事業所との関係構築に努めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族、これまで関わってきた専門職と密に連絡を取り、要望や課題に対して取り組むようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学段階から、十分に面談の回数、時間をとり、家族が納得した段階でサービスの開始をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の中で要望、課題に優先順位をつけ、個々の利用者に適切なサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、共に行う作業を通じて信頼関係を構築し、時に友人、時に家族といった関係づくりを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員が適切なコミュニケーションをとることで、利用者に関する情報を共有し、ケアを協同して行っているという意識を持ってもらえるよう図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人の要望を元に、家族の協力を得ることで、友人、親族との関係を継続できるよう支援している。	利用者の遠方の子どもたちが事業所に集まる支援をしている。嗜好品や新聞、週刊誌を読む習慣のある人に継続して購入している。田植え時期になると水が気になる人には付き添って出かけている。墓参りや外食は家族に依頼して出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活の中では、うまくいかない利用者間もあるため、職員が間に入ることやフォローすることで、各利用者の生活を支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の準備や、退去後の生活においても必要なサービス利用に支障がないように相談・支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	色々な場面にて利用者の希望や意向を尊重し、また汲み取ることに努め、可能な限り暮らしに取り入れている。	職員は常に利用者の横に座り世間話しをしながら思いを汲みとっている。テレビを見て寿司を食べたいと言うとちらし寿司にしたりメニューも臨機応変に対応している。他施設で困っていた若年性認知症の利用者を受け入れ、本人本位に検討しケアすることで落ち着いて過ごせるようになった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者又は家族、関係専門職から、これまでの暮らし方や個人情報収集し、利用者本人に合う生活を維持するために支援をする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身状態、日常の暮らし方を細部まで観察し、支援に役立てるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に全スタッフが情報収集に努め、利用者、家族との意見交換し、現況に合う介護計画作成に努めている。	職員は全利用者の状況を把握し朝のミーティング時に情報交換を行っている。職員・ケアマネージャー・医師・看護師等に、生活保護者は役所の確認をもらい家族の意見・要望を入れ介護計画を作成している。介護計画は家族の来訪時に説明して了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の関わりにおいて、気づき・実践・結果に関して、連絡ノートを活用することで情報を共有し、介護計画作成に活かしている。		

静岡県(グループホーム源氏庵)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	発生したニーズに即応することを大切にし、職員から利用者、家族に選択肢を提案することや、協力関係機関からもアドバイスをすることで、当事業所において可能な限りの支援を行うよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の暮らしがよりよくなるよう、活用できる地域資源を模索し暮らしが豊かになるよう支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と密に連絡をとり、情報を適切に伝達することや、主治医と利用者、家族の間に入り、スムーズな意思の共有が成されるよう支援している。	入居時に協力医の説明をして選択していただき、かかりつけ医を変更する人が多い。受診は職員が対応し、家族への報告は訪問日に口頭で伝えている。他科受診は家族が対応している。ターミナル時には往診があり、医療との連携体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム看護師と職員が情報を共有することで、適切な看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入退院をする際、日常生活の情報を交換したり、医療関係者に適切な情報を伝達できるよう担当主治医も含めた協働関係を築く支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より利用者や家族に重度化・終末期になられた際のことを想定して頂くことや、当事業所において可能な対応を説明し、主治医と常に情報を共有することで、いつでも希望された支援ができるよう取り組んでいる。	契約時に利用者、家族へ事業所の方針を説明し、ほとんどが事業所での看取りを希望する。ターミナル時は医師・病院看護師・当看護師が連携し、家族に段階的にできる事、できない事を説明している。亡くなると他の利用者は居室でお別れを言い、全員で手を合わせしてお見送りしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の初期対応として、応急処置や通報手順等を確認し、実践に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練を行い、災害時に迅速に対応できるよう努めている。	5月、11月に台所からの出火、日中想定で避難訓練を行い、消防団の参加があり、水消火器訓練も行っている。団員より「通報装置の前に物を置かない」「消火器の場所を覚えておくように」と意見があった。また、抜き打ちの通報訓練や、携帯での連絡訓練も行っている。	管理者が消防団員なので心強いが職員は避難誘導等不安を感じている。夜間想定や火災以外の想定での避難マニュアル作りや訓練を行い、職員が積極的に防災意識を持つことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格や生活歴等を考慮し、日常生活の中で一人ひとりに敬意をもって、又柔軟に対応している。	利用者の言うことは全て「一人ひとりを見極めて、その人に合ったケアを統一している。呼び名は最初は「さん」で、呼ばれていた名を聴き変更している。失禁した時等羞恥心に配慮している。縫物のできる人に雑巾を縫ってもらう等、利用者の尊厳を大切にケアしている。体調の悪い時は更に落ち込まないように言葉かけに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者や家族の希望を知ろうとし、様々な場面において自己決定ができるようになに支援をしている。又困難な場合には選択肢を提示することや思いを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の暮らしが御本人のペースで過ごせるよう、その日その時の心身状態を把握し、関わりの中から利用者の希望を見つけ出すようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを把握し、身だしなみやおしゃれを楽しむことができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好や食事の摂り方を把握し、楽しみとなる食事になる支援をし、準備や片付けは利用者と職員が協働としている。	食材は地物を使うようにし、野菜やいちごの差し入れがあり、いちごをデザートに、野菜も多く使用している。食事は事業所で調理し、彩りを工夫することで、食欲が湧くようにしている。テレビを見て利用者から「食べたい」と要求があれば対応している。ご飯やおかゆは毎食炊いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自家米や地元野菜を中心に、利用者個々の状態に応じた、栄養・水分摂取量の確保を支援している。		

静岡県(グループホーム源氏庵)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥防止・清潔保持のため、毎食後に職員指導の下、利用者の口腔状態に応じたケアを勧めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立に向け、利用者個々の排泄を記録し、排泄パターンを考察しトイレ誘導を行い、夜間の排泄に対しては、睡眠の妨げにならない支援をしている。	排泄パターンを記録し誘導している。排便も薬に頼らず果物・牛乳・水分を摂って便秘予防している。リハビリパンツ使用者にはパットを4種類使い分け、パット交換をこまめにする事で節約している。自立の方の夜間は転倒に配慮してトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則正しい生活・食事を軸に、体操や散歩を取り入れ、適切な排便を促している。また、必要に応じて医師と相談の上、薬を用いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間帯(13:30~17:00)に利用者の状態や希望に応じ、楽しみごとと清潔保持のために支援をしている。	週2回の個浴を基本とし、入浴以外の日は足湯を全員行なっている。入浴剤を使用したり季節湯を楽しんでいる。夏場汗をかくとミストを使用し、体調の悪い時は清拭するなど、利用者の状況、体調に応じて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の心身状態に応じ、睡眠や休息ができるよう支援している。居間にある畳スペースにて、簡単に昼寝ができる工夫もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通り、正しく服薬が完了し症状の経過観察に留意する支援をしている。又、副作用と思われる症状が生じた際には早急に医師へ連絡し対応を検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	暮らしの中で、一人ひとりが自分の役割を持ち、共同生活を通して、仲間との関わりを楽しむ支援をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に体力作りや気分転換を兼ね、散歩を取り入れ、利用者や家族の要望があれば外出支援をしている。家族への声掛けも行い、当事業所では対応できない部分に関して協力を依頼している。	天気の良い日は車に気をつけながら散歩に出ている。近所の人達と挨拶を交わし、野菜などの差し入れを頂いている。歩行困難な人は日光浴をして気分転換を図っている。時にはドライブで外に出かけ、外食等は家族に協力してもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭(貴重品)所持は、利用者や家族の希望に応じ、紛失、誤飲等のリスクを説明した上で了承して頂いた場合に、管理していけるよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により、電話や手紙を自由に交換できるよう見守り、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは毎朝利用者と職員で掃除を欠かさず行い、清潔で心地よく暮らせる工夫している。利用者の心身状態を配慮し、音・光等を自然に近いものにしていく。	毎朝の掃除は職員と利用者が合同で行っている。湿度や温度に配慮し、日に2回5分位の換気を行っている。壁には文化祭に展示した作品を掲げつるし雛や鯉のぼりで季節感を出している。食事場所と体操やテレビを見る場所がわかれ共有空間は広く、天井が高い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間を広く取り、畳コーナーや散歩廊下を設け、時には賑やかに時には人の気配を間近に感じながら安心して過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさや室温に配慮し、家族との相談の上、安全を第一とした上で、利用者の持ち込んだ品(家具・写真)をできるだけ使い、居室にて心地良く過ごせる工夫している。	居室への持ち込みは使い慣れたベッドや布団・整理たんす・衣装ケース・仏壇等で快適に過ごせるように配置も工夫している。室温をチェックし、時には湯たんぽを用意している。天気の良い日は掃き出し窓をあけ布団を干し換気している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者の必要に応じて、居室入口に暖簾を下げたり、共用部分に看板を用いている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270300599		
法人名	有限会社 源氏		
事業所名	グループホーム 源氏庵		
所在地	静岡県伊豆の国市四日町346-2		
自己評価作成日	平成29年2月16	評価結果市町村受理日	平成 29年 4月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自然に自分らしく共に生きよう源氏庵」という理念の下に、この地域で暮らされてきた利用者が送られてきた生活を極力維持できるようサポートしていくことに力を入れている。スタッフに対しても働きやすい環境を提供するため、役員が率先してコミュニケーションをとるようにし、結果として勤続10年近いスタッフが、開所当時からスタッフも所属している。スタッフが安定していることで、利用者本人、家族に対するの安心感に繋がると考えている。  
又、利用者家族とコミュニケーションを密にとることで、施設入居に生じる疑問や不安を解消するよう努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2016\\_022\\_kani=true&JgyosyoCd=2270300599-00&PrefCd=22&VersionCd=022](http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JgyosyoCd=2270300599-00&PrefCd=22&VersionCd=022)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 29年 3月 10 日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、パンフレットに記載し、施設内にもフロアーの目に付く場所に掲げている。又、その理念を実践すべく日頃より介護現場において職員に指導をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭への出展や、ボランティアの受け入れ等、地域との関わりを積極的持つようにしている。また、直接的な関わりではないが、日課である散歩により、どういった方が利用しているのか、常に近隣の目に映るように心がけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センター主催の地域での催しにて、施設のことや認知症の事について話す機会を頂いている。また、民生委員向けの講習会を受け入れていることにより、地域の方に、認知症やグループホームの事を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回のペースで開催している運営推進会議で、施設の現状、取り組みを伝え、参加して頂く、関係機関の専門職や区民の方からは、施設に対する要望、質問を頂き、可能な限りフィードバックするようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿福祉課、社会福祉課とは密に連絡を取り、生活保護、緊急的な支援要請に応えられるように心がけている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	あらゆる拘束による弊害を理解した上で、可能な限り行わないようにしているが、それ以上にリスクが大きい場合には、家族との相談を重ねた上で、限定的に行う事はある。それ以外に、気付かぬうちに発せられるスピーチロックには、職員同士で注意し合うようにしている。		

静岡県(グループホーム源氏庵)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での虐待を防止するため、職員同士で声を掛け合い、協力してケアに取り組むようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や後見人制度に関して、必要に応じて市の担当者、包括、社協と連携して取り組み、利用者に不利益が生じないように対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本契約以前に、施設独自の仮入居期間を設け、利用者、家族が納得した上で契約を行っている。変更等が生じた際も面談の機会を設けるよう努め、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情窓口を設け、日頃から利用者、家族と意見交換のしやすい関係作りに努めている。又、頂いた意見は迅速にサービスに活かせるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、職員と意図的にコミュニケーションをとるように図り、日課のミーティング以外にも、年二回以上の懇親会を設けて、意見を出せる環境づくりを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適宜、個別の面談を行う事で、勤務上の悩みや、要望を伝えられる機会を設けている。勤務形態に関しても、管理者以外にも相談できるよう担当者を配置している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々のケアの中で、困っていること、不安なこと、分からないことを共有できるよう、連絡ノートを活用している。また、ノートに書きづらい内容に関しては、個別に相談に応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議を主として、他事業所との関係構築に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族、これまで関わってきた専門職と密に連絡を取り、要望や課題に対して取り組むようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学段階から、十分に面談の回数、時間をとり、家族が納得した段階でサービスの開始をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の中で要望、課題に優先順位をつけ、個々の利用者に適切なサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、共に行う作業を通じて信頼関係を構築し、時に友人、時に家族といった関係づくりを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員が適切なコミュニケーションをとることで、利用者に関する情報を共有し、ケアを協同して行っているという意識を持ってもらえるよう図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人の要望を元に、家族の協力を得ることで、友人、親族との関係を継続できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活の中では、うまくいかない利用者間もあるため、職員が間に入ることやフォローすることで、各利用者の生活を支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の準備や、退去後の生活においても必要なサービス利用に支障がないように相談・支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	色々な場面にて利用者の希望や意向を尊重し、また汲み取ることに努め、可能な限り暮らしに取り入れている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者又は家族、関係専門職から、これまでの暮らし方や個人情報を収集し、利用者本人に合う生活を維持するために支援をする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身状態、日常の暮らし方を細部まで観察し、支援に役立てるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に全スタッフが情報収集に努め、利用者、家族との意見交換し、現況に合う介護計画作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の関わりにおいて、気づき・実践・結果に関して、連絡ノートを活用することで情報を共有し、介護計画作成に活かしている。		

静岡県(グループホーム源氏庵)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	発生したニーズに即応することを大切にし、職員から利用者、家族に選択肢を提案することや、協力関係機関からもアドバイスを得ることで、当事業所において可能な限りの支援を行うよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の暮らしがよりよくなるよう、活用できる地域資源を模索し暮らしが豊かになるよう支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と密に連絡をとり、情報を適切に伝達することや、主治医と利用者、家族の間に入り、スムーズな意思の共有が成されるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム看護師と職員が情報を共有することで、適切な看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入退院をする際、日常生活の情報を交換したり、医療関係者に適切な情報を伝達できるよう担当主治医も含めた協働関係を築く支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より利用者や家族に重度化・終末期になられた際のことを想定して頂くことや、当事業所において可能な対応を説明し、主治医と常に情報を共有することで、いつでも希望された支援ができるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の初期対応として、応急処置や通報手順等を確認し、実践に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練を行い、災害時に迅速に対応できるよう努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格や生活歴等を考慮し、日常生活の中で一人ひとりに敬意をもって、又柔軟に対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者や家族の希望を知ろうとし、様々な場面において自己決定ができるような支援をしている。又困難な場合には選択肢を提示することや思いを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の暮らしが御本人のペースで過ごせるよう、その日その時の心身状態を把握し、関わりの中から利用者の希望を見つけ出すようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを把握し、身だしなみやおしゃれを楽しむことができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好や食事の摂り方を把握し、楽しみとなる食事になる支援をし、準備や片付けは利用者と職員が協働としている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自家米や地元野菜を中心に、利用者個々の状態に応じた、栄養・水分摂取量の確保を支援している。		



静岡県(グループホーム源氏庵)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥防止・清潔保持のため、毎食後に職員指導の下、利用者の口腔状態に応じたケアを勧めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立に向け、利用者個々の排泄を記録し、排泄パターンを考察しトイレ誘導を行い、夜間の排泄に対しては、睡眠の妨げにならない支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則正しい生活・食事を軸に、体操や散歩を取り入れ、適切な排便を促している。また、必要に応じて医師と相談の上、薬を用いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間帯(13:30~17:00)に利用者の状態や希望に応じ、楽しみごとと清潔保持のために支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の心身状態に応じ、睡眠や休息ができるよう支援している。居間にある畳スペースにて、簡単に昼寝ができる工夫もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通り、正しく服薬が完了し症状の経過観察に留意する支援をしている。又、副作用と思われる症状が生じた際には早急に医師へ連絡し対応を検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	暮らしの中で、一人ひとりが自分の役割を持ち、共同生活を通して、仲間との関わりを楽しむ支援をしている。		

静岡県(グループホーム源氏庵)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に体力作りや気分転換を兼ね、散歩を取り入れ、利用者や家族の要望があれば外出支援をしている。家族への声掛けも行き、当事業所では対応できない部分に関して協力を依頼している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭(貴重品)所持は、利用者や家族の希望に応じ、紛失、誤飲等のリスクを説明した上で了承して頂いた場合に、管理していけるよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により、電話や手紙を自由に交換できるよう見守り、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは毎朝利用者と職員で掃除を欠かさず行き、清潔で心地よく暮らせる工夫している。利用者の心身状態を配慮し、音・光等を自然に近いものになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間を広く取り、畳コーナーや散歩廊下を設け、時には賑やかに時には人の気配を間近に感じながら安心して過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさや室温に配慮し、家族との相談の上、安全を第一とした上で、利用者の持ち込んだ品(家具・写真)をできるだけ使い、居室にて心地良く過ごせる工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者の必要に応じて、居室入口に暖簾を下げたり、共用部分に看板を用いている。		